

武蔵野市第五期長期計画・調整計画市民会議
(第1回)

議事録(要旨)

日時：平成26年6月5日(木)
場所：武蔵野市役所 412会議室

1. 開会（午後7時）

2. 委嘱状交付

（邑上市長より、10名の委員に委嘱状が交付された。）

3. 市長挨拶

【邑上市長】雨の中、第五期長期計画・調整計画の市民会議に、男女幅広い世代の方々にご参加いただきまして、ありがとうございました。ご案内のとおり、現在は第五期長期計画の期間中ですが、4年を経過した時点で、調整計画としてバージョンアップを図っていくという予定となっています。私は、第五期長期計画を市民参加のもとにつくり上げたという自信を持っておりますが、調整計画として、8月の策定委員会に向けて、現時点での社会の状況の変化をご指摘いただき、見直すべき視点のご提案をいただけたらと思っています。大いに、自由に議論をお願いします。

4. 委員自己紹介

【井原委員】緑町に住んでいます。武蔵野市で生まれ育ちましたが、そのまま住み続けていたわけではなくて、結婚したときに戻ってきました。保育園の父母会や学校のPTAなどを通じて地域の方々と知り合い、このまちは難しいところもあるんだなと感じています。その辺を皆さんとお話ししながら、少しでも何か投げかけていければと思っています。

【大川委員】桜堤に25年住んでいて、武蔵野は住みやすいところだと実感しています。武蔵野市の魅力は、住みたいまちナンバーワンの吉祥寺があり、その周りに住みやすい住宅街があることだと思います。それには、たくさんの人に住んでもらうことを続けていくしかないのではないかと考えています。

【川原委員】生まれてからずっと吉祥寺で、今は吉祥寺東町に住んでいます。5月18日にワークショップに参加しました。長く住んできた武蔵野市について深く考えることがなかったのですが、住民の目から見たよいまちをつくっていきたいと考えています。

【菅野委員】桜堤に家を構えて17年になります。桜堤は、憧れのまち吉祥寺とは全く違う雰囲気ですが、マンションがふえて、随分変わりました。ジャンボリーのお手伝いもしています。子どもはふえても指導者が減るという切迫した状態にありますが、子どもとのつながりで、市とのパイプ役になればと思っています。また、ここで参考になったことは地域にも持って帰ろうと思っています。

【栗原委員】境南町に住んでいます。武蔵野市に転入して約20年です。私は子どもさんとのつながりはありませんが、5年ぐらい前から地域のコミュニティセンターにかかわるようになりました。地域にかかわっていると、うれしいことに、まちの中でご挨拶する人が増えます。コミュニティセンターのいろんな活動を通して、助けてもらったり、私の力を出せることをさせていただいています。地道に、一人ひとりがつながって、助け合えるところは助け合い、伝え合えることは伝え合うということを、この武蔵野でもっと増やしていきたいと思っています。

【杉澤委員】生まれて、かれこれウン十年、武蔵野市民です。今は境南町に住んでいます。私は、日本で暮らす外国人の相談を受ける活動を行ってきました。外国人の抱える問題は、日本社会の問題そのものです。東日本大震災では、近所づき合いがないこと、「高台に避難してください」という言葉がわからないことから、津波に流された外国人がたくさんいました。私は、武蔵野の災害予測状況はわからないのですが、一人の人間の命を守っていけるまちであってほしいと思います。外国人住民が社会の中で孤立しないまちであってほしいと思っています。

【瀬山委員】境に住んで、まだ1年と2カ月です。国際交流と防災に興味があります。市報を見てイベントに参加すると、どうも世代の偏り、世代間格差を感じます。私の仕事である社会教育の分野にも多世代間交流の壁があるのです。それをどう突破していけばいいのかを考え、まちづくりにも生かしていければと思っています。

【樋口委員】武蔵野市に住んで11年になります。私の住む吉祥寺東町に外環道路が通ることになり、その問題の検討会や、長谷工マンション建築問題とその後の雨水の貯留施設に関連した地域の問題の会議に出たり、コミュニティバスの運行時間延長の陳情文作成のお手伝いなどをしてきました。1年だけですがジャンボリーのお手伝いもしました。コミュニティセンターの副代表もやっていたという立場から、問題になったところを少しでも伝えていけたらと思っています。

【本田委員】おととしに桜堤に引っ越してきました。新聞記者を10年ほどやっております、地方の行政を見てきました。地域医療も勉強しています。武蔵野に認可保育所を増やすための子育て世代のネットワークもつくっています。武蔵野市の魅力は、福祉を大事にすることや、平和を求める、環境を重視するということも含めた文化的なところだと感じています。

【吉田委員】私は武蔵野に住み始めてから優に半世紀を超えました。半世紀前の吉祥寺は、近隣のまちと比べて特にすぐれた評価をされているとは言えなかったのです。武蔵野は、都会のようであり、郊外のようでもあるという地の利がある比較的小さい自治体です。坂がなくて移動しやすいといった好条件も備えていますが、最近の吉祥寺に対する評価は、市長や市役所や市民の努力とは言えないところがあります。武蔵野を主体的に、他の追随を許さないような、秀でた自治体にしていくにはどうしたらいいかという問題意識から、今回応募させていただきました。

〔市長、退席〕

5. 事務局紹介

(堀井総合政策部長以下7名の企画調整課職員の紹介)

6. 議事

(配付資料の確認)

(1) 趣旨説明

1) 第五期長期計画・調整計画について

(企画調整課長が「武蔵野市第五期長期計画」の冊子をもとに下記の点を説明した。)

- ・第2章「長期計画策定方式」の1「武蔵野市方式の継承」、2「長期計画の役割・位置づけ」について〈15 ページ〉
- ・長期計画条例のうち第3条「実行計画の見直し」、第5条「議決」について〈103 ページ〉
- ・議決部分である市政運営の基本理念及び施策の大綱について〈104 ページ〉
- ・基本的な考え方、市政を取り巻く主な動向について〈20 ページ〉
- ・長期計画期間における課題について〈21～22 ページ〉
- ・計画期間と計画のローリングについて〈16 ページ〉

2) 会議の位置付け

(企画調整課長が、第五期長期計画・調整計画策定に向けて、市民ワークショップからスタートし、当該市民会議が行われていること、今後については、8月に策定委員会を設置し、節目節目で市民ワークショップあるいは関係団体ヒアリング等を開催していく旨の説明をした。)

3) 運営等

①次回以降の日程について

- 第2回 6月17日(火) 412 会議室
 第3回 7月 2日(水) 801 会議室
 第4回 7月17日(木) 413 会議室
 第5回 8月 7日(木) 603 会議室
 各回とも開会時間は午後7時。

②会議の進め方について

- ・委員長、座長は置かず、企画調整課長の進行のもと、委員間の討論を中心に進める。
- ・会議は公開とする。
議事要旨をまとめた会議録を作成し、公開する。
委員名はA委員、B委員と表記する。委員のA、B表記は回ごとにかわる。
- ・傍聴を認める。

【A委員】 論点を議論する会議ですから、要点を1～2行にまとめてしまうのではなく、内容がそぎ落とされない議事要旨にしてください。

議事録は、公開前に確認、修正をかける形で進めていただけののでしょうか。

【企画調整課長】 委員の言われた形で要旨を作成します。

議事録は、公表前に委員の確認をいただきます。

③検討テーマについて

- 第1回 「わがまち武蔵野」をテーマにした課題抽出
 第2回 健康・福祉、子ども・教育
 第3回 文化・市民生活、緑・環境
 第4回 都市基盤、行・財政

第5回 報告書とりまとめ

(2) 武蔵野市の魅力や憧れのまちにするにはどうすればいいかについて課題抽出

【B委員】 私は作文に、武蔵野が住みたいまちナンバーワンであること理由として、交通の便がいいこと、自然が豊かに残っていること、買い物の便のよさ、知的水準の高さなどを挙げ、その一方で、武蔵野で不安になっていることとして、保育の問題や体感治安の悪化があると書きました。これにアプローチするには、まず、公共サービスを提供する市役所の得意な分野から課題ごとにPDCAサイクルを実行することです。問題を洗い出して、よりよいものやっけていくという、至極当たり前のことからやっけていくことです。また武蔵野市では、本来は公共サービスであるごみ拾いを、月に一度、コミュニティ活動の一環で市民がやっけている例もあります。市民自らできることはやっけていこうという試みをうまく活用していければと思います。

【A委員】 私は、コミュニティセンターにかかわって、地域にはさまざまな活動があることがよくわかりました。市の方がなさっている部分もあれば、地域の市民が担っている部分もあります。それがコミュニティセンターという場所を通してつながり、意味のある活動になっています。

武蔵野プレイスは、市民活動の拠点として整備され、来館者は年間140万人という魅力のある館になっています。プレイスの兼ね備えた4つの機能、生涯学習機能、図書館機能、市民活動支援機能と青少年関連の間の連絡をもっと持つことで、市民活動にもダイナミズムが出てくると思います。

コミュニティセンターは、かかわる方たちの年齢がだんだん高くなってきました。マンションが建って、新しい入居者と昔から住んでいる人たちがどうつながっていくのかという課題もあります。PRしても、コミセンになかなか来ていただけません。そこで、例えば、市の転入窓口で「地域のことはコミュニティセンターに」というメッセージを伝えていただき、地域で説明するような取り組みを地道に積み上げていけば、つながりはできるのではないのでしょうか。市の方が定期的にコミュニティセンターにいらっしやるだけでも、コミセンに顔を出す方はふえると思います。具体的ところで市民と行政が一緒になってやっけていけるといいのかなと思っています。

【C委員】 武蔵野市の税収はトップランクにあります。住んでみたいナンバーワンの吉祥寺、その周りの市街地がある武蔵野は「いいところだ」と言う人がワークショップでもたくさんいました。それが開発をする会社の人に伝わり、マンションを建てれば売れるという見込みと現状に拍車をかけていると思います。今後も高い税収を維持するには、魅力的な環境を守り続ける必要があります。子どもを育てやすい武蔵野市で生活したいと思えるような施策を続けていかないと、人口も確実に減っていく中、福祉の財源だけは確実に膨れ上がってしまうという内容のことを作文にも書きました。

【D委員】 今絶好調な武蔵野市ですが、今のうちに何とかしておかないと、大変なことになります。住みたいまちナンバーワンにしたのは、実はメディアなのです。「武蔵野アドレス」なら、三鷹よりも家が高く売れますし、ますます高収入な方々が入ってきます。平均世帯収入が全国でナンバーワンだそうですが、お金持ちが集まって、まちもきれいになれば、放っておいても評価は上がっていくでしょう。しかし、単身世帯が約半分を占めます。その中で若い方が多いと、高くて家は買えなくて、結局外に出てしまっ、若い人が定着しない。一方で、昔からいる人たちは高齢化する。

私は、武蔵野市は伝え方が下手だなと思っています。「市報に何でも書いてあるから、言っただ」と

いう感じもプンプンします。せっかくケーブルテレビがあるのですから、その活用も今のうちから考えないと、テレビショッピングの上がりだけが頼りの状態になります。NPOを使って番組を制作させるとか、むさしのFMとの連携でもおもしろい番組ができます。市の後押しと、発信の仕方を変えていくだけでも、かなりよくなると思います。

【E委員】長期計画を拝見しましたが、施策の立て方が内向きのように感じます。財政指数が高くて、外に開いていく姿勢が乏しい。

今、政府は2020年のオリンピックに向けて、外国人労働者を受け入れる方向を打ち出しています。外国人は、まず労働者として入ってきて、家族を呼び寄せ定住化していきます。国際結婚もあります。こうして日本は多文化化していくわけです。武蔵野市にとっても、オリンピックは1つのターニングポイントになります。

また、少子高齢化に向けて、外国人受け入れの議論がなされています。住みやすいまちナンバーワンの武蔵野市は、そうした外国人材へのアピールにもなります。今後10年、20年先を考えて、武蔵野市が世界に発信していくという観点は必要だと思います。

外国人は、武蔵野市の現施策では、支援する対象でしかありませんが、まちを豊かにしていくすばらしい人材でもあります。社会を多様化し、豊かな地域を創造していく人的リソースと捉えて、施策をもう少し積極的にアピールしてもいいのではないのでしょうか。

【F委員】市報を見て、浄水場の見学会に行ってきました。椅子が30個ぐらいのところ、その3倍ほどの人が来ていて驚きました。市民は、市政に関心が高いと思います。3月11日の大震災で、自分はいつ支援する側、される側になるかわからないという意識も芽生えています。今は地域活動に参加してもらおうチャンスです。

私は、長期計画の資料を最初から終わりまで読みましたが、会社で経理をしていた私は、1冊に幾らかかっているのかということのほうが気になりました。長期計画の冊子は、一般の市民には「市役所がつくったもの」という認識です。14万人の市民に全文を読んでもらう必要はないかわりに、エッセンスをわかりやすくしたほうがよいような気がします。財政力指数のような術語的な難しい話ではなく、保育園入園希望の待機児童の数等を指数化するなど、言葉を聞いただけで誰もがわかるものにして、1人でも多くの市民に当事者意識を持ってもらうようにすると思います。

【G委員】自分が当事者の自覚を持つことは大事です。市民が自分たちでやっていこうとすることで、さまざまな反応やつながりが出てきます。ただ、地域活動には敷居の高い部分もあります。やってみたいと思う一方で、きっかけがわからない。面倒くさくなりそうだと敬遠する30代、40代は結構います。原因は、仕事や家事で地域どころではないということが一番にあります。でも、将来は、家族や仕事の関係だけでいいというわけにもいかなくなります。やりたいという思いを取り入れられるような地盤づくりが大事です。

私はプレイスにも何度か行き、市民活動家の発表も聞くのですが、どうも発表の場だけで終わって、市民活動をしたい人たちをつなげるところに目線がないような気がしています。相談する機関はあっても、ある組織の中に一人を入れ込むだけで、一人ひとりをつなげる感じではない。世代間格差はあっても、ポテンシャル自体は高いので、それぞれの世代でやりたい人たちが集まって、違う世代にもわかりやすく伝えるにはどうしたらいいのかが課題だと思います。

【H委員】私は、子どものころから今の場所に住んでいるのですが、子ども時代、私をかわいがってくれた人たちは今、年をとられて、おひとりで住んでいます。武蔵野市は、高齢者福祉や介護の部分はかなり充実していると思いますが、やはり近所の声のかけ合いが重要だと思い、最近では電話番号を交換して、電球のつけかえのようなことでも気軽に言ってほしいとお声かけをしています。

若い人は、コミュニティセンターにはなかなか足を向けません。いかに若い世代、働いている世代にコミュニティセンターに足を運んでもらうかを考えないといけないと感じました。

武蔵野市は、住宅街の緑もとてもきれいで、気持ちがいいですが、最近では相続で土地を売却して、今まで大きかった家がどんどん小さな住宅になっていきます。緑の部分も削られていきます。これからは、まちの様相も変わってくるのではないかと懸念しています。

【I委員】武蔵野市は、文化施設を非常によく考え、つくっています。生産緑地なども計画的に使っているし、平和を求める施策も大きく打ち出しています。その魅力あるところで育った人たちが今も住んでいるというのが武蔵野市の強みだと思うんです。コミセンの多さと活用頻度にも驚きました。いつ行っても、市民がいます。それは市民が力を持っているということでもあります。武蔵野方式と豊富な人材で、認可保育所をつくるにしても、将来的に他施設に転換できるような工夫をしていけば、他から視察に来るような施策ができるのではないのでしょうか。

ただ、高所得者を念頭に置いているような危険性も感じています。所得の格差は治安に直結します。吉祥寺という商業地を福祉政策ですくえるものがあるのかどうかはわかりませんが、低所得の住民のことも考えた施策が必要だと思います。

【J委員】魅力のあるまちとして吉祥寺が必ず上がりますが、私は吉祥寺には余り魅力を感じません。買い物に便利な一区画があるだけだと捉えています。子どものころは、行けば楽しい場所でしたが、お店の名前が違うだけで、扱っている物も値段も一緒ということに気づいた高校3年ぐらいから「何なんだろう」と思うようになりました。インスピレーションを与えてくれるまちというわけでもないし、吉祥寺に行かなくても、生活はできます。

担税力が高くても、観光地でもなければ企業城下町というわけでもないし、とりたてて裕福なまちだとも思いません。財政力指数が高いという話も、あれは国の考えた自治体が行うべきメニューを元にした指数であって、やらなければならないことは自治体ごとに違うはず。ただ、ちょっと足を延ばせば23区に出るし、西には奥秩父や奥多摩がある。中央線と西武線の間はバスでつながれているし、武蔵野から南側への移動もできる。結局、ベッドタウンなんです。私は、魅力がないと言いながら、ずっとこのまちに住んでいます。それは、ただ単なるベッドタウンではなく、ホームタウンというんですかね。昔から私を知っているおじさん、お婆さんがいる。それが、住み続けられるまちであるかどうかの一番のポイントです。

世代間がつながっていないことは、コミュニティに顔を出すようになって実感しています。現役で子どもを育てている40代と、60を超えた人たちとの間が全然埋まらない。それを今いきなりつなぐことはできない。子どもが生まれたことによってコミュニティができ上がっていった世代が、そのまま上上がっていくしかないんだろうなと思うんです。

このまちにいるといろんなことができる、そんなまちであってほしいと思います。箱物をいっぱいつくるわけにはいきませんが、作るのなら20年、30年を見据えた複合施設でしようが、その前に、今あ

る施設の運用の仕方、工夫をもっと柔軟にすることではないかと思います。

【H委員】私の周りにも、そんなに高齢でなくても、ここ最近の吉祥寺の変貌ぶりに辟易している方がいらっしやいます。新しく来れば武蔵野市は何でもそろっていて、便利で、いいまちだと思うかもしれない。吉祥寺は武蔵野市の顔です。でも、落ちつかないまちになってしまったとこぼしている方もいることに市は気づいていただきたい。昔はと言うのはよくありませんが、今は地価も高くなって、個人の方がお店を出すこともかなわないということが悲しいです。

【E委員】武蔵野市はコミュニティセンター構想を全国の自治体に先駆けて行いました。自治会をなくして、コミュニティセンターで政策展開をしています。コミュニティセンターを地域住民同士のつながりの拠点にという発想です。コミュニティセンターには何%ぐらいの住民が足を向けているのかという統計的なデータはあるのでしょうか。

【B委員】平成 25 年度のコミュニティのあり方懇談会に参加していました。「平成 24 年度これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査の報告書」には、コミセンの認知度が出ています。「よく知っている」51.3%、「名前は知っている」31.4%、「全く知らない」6.5%と、アンケートに答えた人の約8割がコミセンを利用しているか、知っているようです。

【C委員】私は、選挙以外でコミュニティセンターに行ったことが一度もありません。時々、郵便受けに案内が入っているのですが、「全然関係ないじゃん」と思っていました。

前回のワークショップでは、コミュニティセンターは箱であって、人の集まる場所ではない、部屋を貸しているだけだと断言する人がいました。

【B委員】コミセンの形は館ごとに異なっているのです。お互いの文化背景が違って、コミセン間でも会話にならないことが結構ありました。境南コミセンは、たしか委員会方式で、さまざまな団体の代表者がいますし、けやきコミセンは、武蔵野市民じゃなくても、やりたい人が運営にかかわられて、参加しやすい形になっています。

私は、運営委員の窓口をやっていたときは賃金が発生していたのですが、役員は無給でした。これではマンパワーが落ちます。また、今までのイベントは全てやっていかなければならないというプレッシャーがあり、どうしてもつまらないものを再生産してしまう羽目になってしまいます。

【H委員】自宅に近いコミセンで近所のおじいちゃん、おばあちゃんが参加しているコーラスの練習やフラダンスの主権には、市は全くかかわっていないのですね。

【B委員】コミュニティセンターは非営利組織であり、市民自らの文化発表の場です。このため、有償のビジネスの方はお断りしています。支払っても足代程度で、手数料的な形で1回につき3,000円以下と決めているコミセンもあれば、曖昧な形でやっているところもあります。

【I委員】桜堤の西部コミセンは、子育て世代がたくさん利用しています。高齢の方も何かの練習や、茶飲み会のようなものもやっています。そういう場所は、市民力を上げるためのベースになっているの

です。ただ、子育て世代よりも若い人たちは、プレイスで音楽の練習はしても、コミセンは使っていないという利用世代の偏りはあると思います。

【J委員】コミュニティ構想には、すごいことが書いてあるのですが、知っている市民はいないのではないか。宝の持ち腐れです。

人が集まるには場所が必要です。それを運営してくださっているコミュニティ協議会と、市民社協や青少協が、このまちでもうちょっとうまくやってほしいです。1人が3つも4つも役を抱えていたら疲れるし、周りもなかなか一步を踏み出せない。そこをうまくつなげたいし、このまちはどうしてコミセンがあるのか、人と人とのつながりを昔はどう考えていたかもさらっていききたい。

次回の資料として、コミュニティ構想をぜひ出してください。

(3) その他

【企画調整課長】資料は次回までにメールでお送りします。

【A委員】会議録以外の資料はなるべく早くください。

【企画調整課長】それでは、2時間ありがとうございました。次回もよろしくお願ひします。

閉会（午後9時1分）